

情報を集め、自分の考えを持ち、学習や生活に 生かすことのできる子どもたちの育成

長野県佐久市立野沢小学校 小林 康 宏

1. はじめに

野沢小学校は、佐久平の南に位置し、浅間山や八ヶ岳を望め、千曲川の清流を眺められる豊かな自然環境に囲まれている。また、近年、新幹線や高速道路などの交通網も整備され、産業・文化等の発展が大きい社会環境の中にある。

こうした環境の中であって、本校児童666名は、「やさしく」「かしこく」「たくましく」を学校目標に掲げ、共に学び、気づき、考え、粘り強くやり抜く自分づくりを目指して学習活動に励んでいる。

さらに、開校20周年（平成14年度）を迎え、総合的な学習の時間を使って、地域の良さを再発見しようと、地域の伝統行事や史跡について調べたり、園児やお年寄りの方、外国の方たちと交流したりするなど活動に取り組んできた。そうした学習活動の中から、自ら課題を見出し、調査追究したことを友達や地域の方に発表したりする力が伸びつつある子どもたちである。

そして、今年度（平成15年度）は、開校21年目の新たな進展を目指して、地域だけでなく、長野県や全国、世界にまで視野を広げて学習活動を展開し、教科学習との関連もはかたりしながら、

- (1) 必要な情報を収集したり、集めた情報の中から、他教科の学習活動や实际生活に役立てたりしていく子どもたちの育成（本テーマ）
- (2) 新聞の学習材としての活用法（サブテーマ）

を、実践1年目のテーマに据え、以下の実践を試みていった。

2. 新聞活用の環境設定

(1) N I Eコーナーの設置

- ・図書館に新聞コーナーを設けて、毎朝、6社の新聞を並べ、子どもたちがいつでも読むことができるようにした。

(2) バックナンバーの保管

- ・学習センターに月ごとの新聞をまとめ、切り抜いたり、持ち帰って読んだりすることができるようにした。

(3) 記事紹介

- ・毎日、係から先生方に、子どもたちが興味を示しそうな記事（スポーツ、コンピュータ、動物など）のコピーを紹介（配布）し、新聞への意欲付けに活用していただけるようにした。
- ・他校の実践を紹介し、実践への参考にしていただいた。

3. 実践の概要

(1) 実践の方向

① 児童の実態（読む・書く・情報収集・新聞の活用に寄せて）

- 朝の読書の時間を始め、休み時間や週1時間の読書の時間など、たくさんの本を図書館から借り、集中して本を読んでいる。
- 音読や語り、気持ちを詩に表現することに、意欲的に取り組む。
- テレビ、インターネット、見学による聞き取り調査などから、積極的に必要な情報を得ようとする。
 - 書かれている内容を要約してまとめることができにくい。
 - 自分の考えを相手に分かりやすく伝えることができにくい。
 - 新聞については、普段の生活の中でほとんど読むことがなく、関心が薄い。
（新聞を読む子においても、ほとんどがテレビ欄。その理由として、他の記事は、分からない漢字がたくさんあり、内容を理解しにくい。）

② 活用法とつける力として考えられること

- ア) 子どもたちの興味を引きそうな記事を読んだり、内容を調べたりすることを通して、新聞を積極的に読もうとする。
- イ) 分からない言葉や漢字を、辞典を使って調べることを通して、活字を読む力を育てていく。
- ウ) 記事の内容を要約し、紹介する活動を通して、文章を書く力や相手に分かりやすく伝えたり、友達の発表を聞いたりする力を育てていく。
- エ) 関連記事を集めたり、内容について詳しく調べたりする活動を通して、必要な情報を収集する力や、粘り強く追究する力を育てていく。
- オ) 記事の内容について、自分の考えを発表する活動を通して、物事を考え判断していく力を育てていく。

子どもたちの良い面を生かし、マイナス面を育てていけるように、上記のような新聞の活用法と育てていきたい力を考え、発達段階に応じて、各学年で実践していくことにした。

(2) 各学年の主な取り組み

学年	活 動 内 容
1	・朝や帰りの会などで、興味関心が持てる新聞記事を担任が紹介し、新聞への関心を高めていく。
2	・テレビ番組の見方、番組紹介の記事を読んでもみる。 ・テレビ欄から、帰宅後のテレビを見る時間の計画を立てる。
3	・興味も持った新聞記事を、簡単な言葉で友達に紹介する。 ・地域調べの学習で、資料になる記事を集める。
4	・辞典や5W1Hを使って、興味を持った記事を要約し、紹介する。 ・同じ内容の記事を比較したり、社説から自分なりの考えを友達に伝える。

3	・社会科の学習と関連づけて、テーマを「環境」に焦点化し、記事を集めて紹介したり、資料として活用していく。
3	・社会科の学習と関連づけ、遺跡の発掘の記事を資料として活用したり、戦争の記事から、平和を守ることの大切さを学んでいく。

4 具体的な実践

実践1

5W1Hを使って新聞記事の内容を読みとり、友達に記事を紹介していくことで、新聞から情報を得ることの楽しさを感じていった子どもたち（4年）

単元名 「ミニ記者になろう」（国語4時間扱い）

4年生は、図書館の本やインターネットを使って、長野県の特徴や全国の伝統工芸品を意欲的に調査活動に取り組む子どもたちである。また、国語で国語辞典や漢字辞典の使い方を学習し、辞典を使いながら、子どもたちが新聞記事を直接読みながら、学習を展開していくことができるのではないかと考えられる。

しかし、新聞に関わってその実態をみると、ほとんどの子どもたちが、これまでに新聞を読んだことがなく、1週間に1度は読む子でも、テレビ欄か4こまマンガ、スポーツ面の写真、広告を見る程度であった。

また、図書館にある新聞を自由に読ませてみてその感想を聞いてみたところ、「漢字が読めなくてよく分からなかった。」辞典を使いながら自力で読んでみようがんばっていた子でも「新聞は難しい。」という感想がかえってきた。

そこで、新聞の構成や記事の読み方の基礎を身に付けさせながら、書かれている内容を理解することを課題に置き、記事を紹介し合う活動を通して、新聞から情報を得る楽しさを感じてほしいと願い、本単元を設定した。

1 単元の目標

- (1) 新聞記事に興味を持ち、内容を理解しようとする。
- (2) 辞典を使って分からない語句を調べ、5W1Hを捉えながら新聞記事の内容を読みとることができる。
- (3) 読みとった内容を紹介記事にまとめ、聞き手に分かりやすく伝えることができる。

2 展開の概要

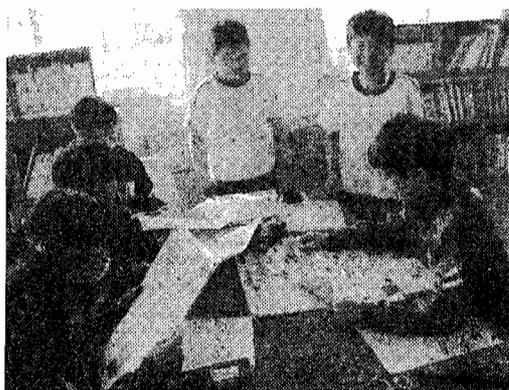
時	指導事項	学習内容
1	記事を選ぶ際は、できるだけ同じジャンルの記事を選んだ同士でグループ化させる。	一人ひとり興味を持った新聞記事を探し、グループで持ち寄った記事の中から1つを選び出す。
2	語句調べや5W1H、要約など、グループ内で分担して、記事紹介をまとめさせる。	リード文を読んで、5W1Hを学習カードに書いたり、要約を書いたりする。

3	感想は、全員が発表できるようにする。	記事紹介のリハーサルを行う。
4	紹介してもらった記事についての感想も発表させる。	ミニ記者になって、記事の内容を紹介し合う。

3 実際の様子

〈グループの友達と協力して新聞記事の内容を読むことに楽しさを感じていく A さん〉

新聞を初めて読み出したときは、「新聞は分からなくておもしろくない。」と言っていた A さんであるが、グループの子どもたちと分からない語句を「あった。ここにあったよ。」と声をかけながら辞書を引いて調べる姿が見られるようになってきた。



また、色鉛筆で 5 w 1 h を確認しながら、学習カードへ要約をまとめた A さんの授業後の感想は、「5 w 1 h で確認していくと、だいぶ内容がわかるようになってよかった。次の時間は、もう少し自分でじっくり読んでみたい。」と、新聞を読むことに意欲を示し始めた。

〈友達の記事紹介から、新聞から情報を得るおもしろさを知っていった K さん〉

「先生、見て。ぼく、4 こまマンガを集めているんだ。」新聞の学習を始めてから、4 こまマンガのスクラップ始めた K さん。グループ学習の中にあっても、4 こまマンガには意識はいくものの、新聞記事へは目がいかず、記事紹介の活動へ意欲を示さずにいた。

記事紹介が始まり、他のグループの発表を聞くようになってから、少しずつ記事への関心が出始め、「鳥インフルエンザって、すごいね。ぼくたちの飼っているインコはだいじょうぶかな。」と、発表の感想を持てるようになってきた。

また、4 こまマンガだけではなく、「先生、これ、面白いことが書いてあったから、みんなに紹介してよ。」と、新聞記事を持ってくるようにもなった。

— K さんの新聞日記より —

信濃毎日新聞 2/16 難しくない「クローン人間」

動物などにクローン動物を生ませることができるとは初めてしりました。今度は家でもできるだけ新聞を読んでみたいです。

朝日新聞 2/18 歴史ロマン眠る海 熱海沖

新聞はいろいろなことが載っていてすごい。海底のことを知ることができて良かった。新聞は楽しいし、いろいろなことが分かるので、毎日ちょっとずつ読んでみる。

4 考 察

- (1) 見出し・リード・解説といった記事の構成を、5 w 1 h に分けて読みとっていくことで、記事の内容が把握しやすくなり、新聞を読む意欲や、新聞から情報を得るおもしろさを味わうことができて良かった。

- (2) ミニ記者になって、新聞記事を紹介し合う活動により、友達の発表を通して新たな情報を得る喜びや、記事の読む意欲を高めていくことにつながって良かった。
- (3) 新聞から知り得た情報を、実際生活や教科の学習に生かしていくところまでには至らなかった。

— 実践2 —

イラク戦争と自衛隊の派遣について、他社の記事を読み比べたり、国際貢献の意義を友達と討論することにより、自分の考えを深めていった子どもたち
 ～ イラクに自衛隊を派遣することに賛成か・反対か ～ (4年)

単元名 「国際貢献について考えよう」(国語 5時間扱い)

1 単元の目標

- (1) 新聞やテレビのニュースに対して関心を持つ。
- (2) 見出し読みや、構成読み、キーワード読み、社説読み、データの読み取りをして、内容をまとめることができる。
- (3) 複数の新聞社から発行されている新聞を比較することで、情報は発信者により加工されていることを知り、受信した情報を鵜呑みするのではなく、情報に対して自分の考えを持とうという意識を持つことができる。

2 単元展開

時	指導事項	学習内容
1	数多くの情報の中から、頻度が高いものをピックアップする。	一週間の新聞の一面の見出しランキングを作る。
234	焦点を絞り、情報を検索する。 自分の意見を構築、発表する。	外交官殺害事件のあらましをまとめる。 自衛隊派遣に対しての賛否を話し合う。
	多くの情報から必要なものをピックアップする。	日本がイラクに自衛隊を送ろうとしている理由を見つける。
5	新聞の主張を比較する。	自衛隊派遣に対する各新聞の主張を見つけ、考えたことを述べ合う。

3 授業の実際

【1時間目】

ねらい

1週間分の新聞の一面を調べて、上位3つを見つけ、イラク問題が共通していることを知る。

— 情報を読み取る技術 — に関連して身につけて欲しいこと

今、どんなことが国民的な話題になっているかを掴むためには1週間分の新聞の見出しを検索することが有効である。

活動

- ① グループで協力して、12/1～12/7までの新聞の一面の記事を見て、カードに書

き出す。

- ② 上位3つの記事を表にまとめる。
- ③ 六紙全てのランキングを表にまとめる。
- ④ 気付いたことを書く。

結 果

1週間分の新聞の1面記事ベスト3は以下のようになった。

	1	2	3
読 賣	イラク殺害事件 5	陸自・イラク 2	イラクのテロ 1
朝 日	イラク 5	たばこ 2	マラソン 1
毎 日	自衛隊 3	閣議 2	県の借金 2
産 経	イラク 7	テロ 2	ラグビー 1
信濃毎日	イラク 8	襲撃 4	合併 2
日本経済	自衛隊 4	イラク 3	国会 2

子どもたちはこの表から、

- ・イラクの記事がすごく多い。イラクのことがいっぱいある。イラクや自衛隊が1位になっている。ことに気付いた。

【2時間目】

ねらい

調査対象を絞り、かつ、見出し・リード文から調べられそうな調査対象を調べることで、基本的な新聞の情報検索を行なうことができる。

—情報を読み取る技術—に関連して身につけて欲しいこと

見出し、リード文を読むことで出来事の骨格を掴む事ができる。

活 動

- ① 襲撃された外交官の乗っていた銃痕のついた車の写真を見て気付いたことを発表する。
- ② 外交官襲撃事件のおおまかな内容を掴む。
- ③ なぜティクリートに二人がいたか調べる。
- ④ 日本がイラク復興のため何をしようとしているか調べる。

結 果

12/1付けの各新聞を見させて行なった。

外交官の乗った自動車の写真を見て、気付いたこととしては、

- ・窓が割れている。左側に多数の弾丸が撃たれている。車の窓に拳銃で撃たれた痕がある。等が出された。この車が日本人外交官が乗っていた車であること、銃痕の数は30発以上あることを説明した。

次に事件の大まかなことを調べた。

いつ	29日午前11時ごろ(日本時間午後5時頃)
どこで	イラク中部のティクリート付近で
何があった	日本人外交官ら3人が銃撃を受け死亡した。

撃たれた方の名前

奥 克彦さん

井ノ上 正盛さん

12/1付の各紙には、見出し・リード文でこれらのことが記載されている。このため子どもたちは抵抗なく調べる事ができた。さて、この授業は、情報を検索することが目的であると同時に、外交官殺害事件と日本の自衛隊派遣についての問題をリンクさせる役割があった。そこで、まず、二人はなぜ危険なテックリートにいたか発問した。

12/1付の新聞を見ることにより、以下のことが分かった。

- ・支援会議に出席するため。・イラク復興会議に出席するため。

続いて、日本はイラク復興のために何をしようとしているのかを調査した。

- ・自衛隊派遣

ともかく、このことは発見できた。そこで、自衛隊について知っていることを子どもたちに尋ねた。ひとりだけ挙手し、指名した。

「外国の人が攻めてきた時に国を守る役目をしています。」

彼女の発言に、災害が起きたときに国民を守る役割をしていることを加え、自衛隊をイラクに派遣することに対しての賛否を子どもたちに質問し、次回は自衛隊についての賛否と理由を討論することを予告して、授業を終了した。

【3時間目】

ねらい

日本がイラクに自衛隊を派遣することに対しての賛否を論じ合うことを通して、イラク問題に対して自分なりの考えを持つことができることはもとより、自分の考えを確かなものにし、相手を説得するためには、確かな情報を得る必要性を感じることができる。

子どもたちのイラクへの自衛隊派遣問題への関心は過去2時間の授業を経て高まりを見せていた。この授業を行なうことにより、賛成派、反対派の議論は盛り上がるだろうが、最終的には仮定の話等議論が宙に浮くだろう。そうなったときに、改めて自衛隊派遣の理由や、活動内容、更には国民世論の動向等を知っておくことが自分の考えを構築する上で必要であることに意識が向くであろうという意図があった。

活 動

- ① 日本が自衛隊をイラクに送ることに対しての賛否と理由を書く。
- ② 指名なし討論を行なう。
- ③ 話し合いをして思ったことを発表する。

結 果

～討論の流れ～

○賛成派、×反対派

○僕はイラクに自衛隊を送ることに賛成します。理由は、テレビで見たけど、自衛隊が来ることにに対してイラクの人が反対していないからです。反対の人、どうですか。

×僕は、反対です。イラクの人全員が歓迎していないからです。賛成の人どうですか。

○自衛隊の何人かは死んでしまうかも知れないけど、それで戦争をやめさせられるならそれで良い。

×人はひとつの命しか持っていない。ひとつの命を消してまで戦争を止められない。
討論後子どもたちが思ったこと

×私は反対です。自衛隊を送ってしまったら、日本が色々な事で巻き込まれてしまうからです。

○自分たちの国だけが幸せになるのは不公平だから、反対という人に私は反対。

授業者から、基本的なこととして、なぜ日本は自衛隊を送り、現地で何をするのかを知って自分の考えを持ち、意見を述べる事が自分の考えを確かに行き通すことにもつながるし、相手を説得できる、次回は、自衛隊派遣の理由・内容を調べる事、また日本国民が自衛隊派遣について賛成か反対か調べたものがあるのでそれも調べる事を予告し、終了。

【4時間目】

ねらい

キーワードを拾ったり、辞書を活用することを通して以下のことを読み取る。

- ・日本がイラクに自衛隊を送るのはイラク特措法、日本国憲法が根拠になっていること。
- ・イラクでの活動内容は、後方支援活動であること。
- ・国民の90%以上が派遣に反対していること。

調べたことから、感想を持つことができる。

—情報を読み取る技術—に関連して身につけて欲しいこと

②の調べ方参照。

活動

- ① イラクに自衛隊を送ることに対しての世論調査結果を調べる。
- ② 日本がイラクに自衛隊を送ろうとしている理由・活動内容を調べる。

調べ方

- ・見出しを手がかりにして載っていそうなところを見つける。
- ・意味の難しい言葉は辞書をひく。
- ・たくさん出てきた言葉を参考にする。
- ・記事の始めか終わりに注目する。
- ・見つけたらナンバリングする。

③ 調査結果を発表し合う。

④ 調べたことを基にして自分はイラクに自衛隊を送ることに賛成か、反対か意見を持つ。

結果

①に関しては、12月5日付の信濃毎日新聞で1面のトップ記事で扱われていたため信濃毎日新聞のグループは早く見つけることができた。

その他のグループは12/1付で毎日新聞6面に載っているのを見つけた以外は見つからなかった。データとして子どもたちが板書したものは以下になった。

賛成 7.5% 反対 33.7% もっとよく考えて決める 56% (信濃毎日新聞12/5)

理由

イラク復興支援特別措置法

内 容

イラクの人に水を与えたり、学校を直したり、病院に連れて行ってあげる。

④・日本の自衛隊を戦争に行かせるのではなく、いいことをしに行くということが分かったから賛成です。・反対で、殆どの人が反対かもっとよく考えるべきと答えているからです。

【5時間目】

ねらい

12/10付の6紙の社説の見出しを読み、イラクに自衛隊を派遣することに対する新聞社の意見を推測し、社説の本文を読むことにより新聞社の意見のある程度掴む。賛成・慎重・反対の立場があることを知り、新聞社により物事の捉え方の違いがあることを知り、メディアを相対化することを認知する。同時に、イラク問題に対する自分の意見を改めて持つ。

活 動

- ① 社説の意味を指導する。
- ② 12/10付の社説の見出しから、新聞社の自衛隊派遣に対するスタンスを推測する。
- ③ 本文を読み、新聞社の自衛隊派遣に対するスタンスを理解し発表する。
- ④ 賛成・反対・慎重の立場があることに対して思ったことを発表する。
- ⑤ 情報は発信する者により加工されていること。受信した情報に対しては鵜呑みにせず、自分で当該の問題に対して考えることを指導する。
- ⑥ 改めてイラクへの自衛隊派遣に対する自分の考えを書く。
- ⑦ 新聞の読み方として学んだことを振り返る。

結 果

見出しによる予想と、本文を見て理解したことは以下ようになった。

	読 賣	朝 日	毎 日	産 経	信 毎	日 経
見出し	国民の精神が試されている	日本の道を誤らせるな	あくまで復興のために	国益と威信をかけた選択	懸念は解消していない	イラク支援へ首相が下した政治的判断
予想	賛成	反対	賛成	反対	もっと考えたほうが良い	賛成
本文から	賛成	反対	もっと考えたほうが良い	賛成	もっと考えたほうが良い	賛成
根拠となる文	自衛隊派遣は日本が国際社会の一員として果たすべき当然の任務	私たちはこの計画に反対である。この計画は日本の針路を大きく変える危険な道だと考えるからだ。	政治の責任で合意形成に最後まで努力する。	小泉首相はテロと闘う決意を示した。	国会で十分吟味を	テロと闘う国際連帯

⑤では次のような意見が出された。

・賛成。社説には賛成がたくさんあるし、日本の自衛隊がイラクに行かないと、イラクの人は日本の人みたいにのんびりできることがひとつもないから。

・もう少し考えたほうが良い。イラクの自衛隊派遣がもしも成功したならいいけど、失敗したらどうなってしまうか分からないから。

・よく考えると、まだ私たちの読んだ新聞（信濃毎日）には行くとはっきり書いてないから、もっとやっぱり考えた方が良い。

・反対。朝日新聞のように、もしかしたら危険なことをしているとぼくも考えるから。授業の最後に、これまで新聞の読み方の学習をしてきて勉強になったことや、思ったことを発表した。

・今までは、テレビで見ていたけど新聞で見ると事件のことがもっと詳しく分かったから、これからは新聞で色んなことを調べてみたいと思う。

・新聞の読み方などが分かったし、今の一番多い見出しで、賛成や反対など色々な考えを持ってできて良かった。

・難しくて分からなかった事も分かったし、中身を読むのが面倒だったけど、中身のはじめと終わりを読んだら分かった。

・新聞は、同じ新聞でも、聞き取り方も違うし、新聞の書き方も違うので色々だと思った。

・新聞の読み方や、どうやって調べるかがよく分かるようになりました。楽しかったです。

5 2年目に向けて

(1) 15年度の成果と課題

① 担任（低学年の場合）や児童同士の記事紹介は、子どもたちに新聞をより身近な
に引き寄せる手立てとして有効であることが分かった。

② 新聞記事の書き表し方を理解させることで、記事の読み方が分かり、内容を把握
していくことにつながるようになった。

③ 新聞記事の教材化にあたり、どんな手立てによって、どんな力をつけていくのか
を明確にしていく必要があると思われる。

④ 環境設定面では、新聞管理などの仕事も、子どもたちに関わらせたり、記事紹介
を全校に伝える場を設定していくなどの工夫をして、新聞をより身近なものにし
ていく必要があった。

(2) 16年度の方向

① 教科の学習や実際生活に役立てていくための活用法

② 各学年の発達段階に合わせた新聞の活用法

を、2年目の課題に据えて、さらに研究を進めていきたい。